

# 楽しく分かりやすい社会科授業の工夫

— 市販の教育用ソフトウェアの有効活用 —

浦添市立浦西中学校教諭

上 地 利 造

## 目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究仮説	1
III	研究内容	1
	1 新しい学力観に立つ社会科の授業	1
	2 新しい社会科とコンピュータを利用した授業	2
	3 市販の教育用ソフトウェアの有効活用	3
	4 使用ソフトウェアの内容と活用のねらい	4
	5 アルプシステムによるデータベースの作成手順	5
IV	授業実践	8
	1 単元名	8
	2 単元目標	8
	3 小単元目標（東南アジア）	8
	4 単元について	8
	5 利用環境	9
	6 評価のポイント	9
	7 学習活動	10
	8 指導計画	11
	9 第2時の学習	12
	10 第7時の学習（検証授業）	13
	11 第8時の学習	15
V	研究の成果と課題	16
	1 検証授業アンケート調査からの成果と課題	16
	2 成 果	17
	3 課 題	17
	4 終わりに	18
	《参考文献・引用文献》	18

# 楽しく分かりやすい社会科授業の工夫

## — 市販の教育用ソフトウェアの有効活用 —

### 【要約】

コンピュータを授業で気軽に活用するには、機械の操作が容易なことと、市販の教育用ソフトウェアを他のメディアと組み合わせ有効活用することがポイントである。調べ学習において、コンピュータを教育メディアのなかの一つとして利用する。必要な情報を選択・理解し、自分の解釈を加えて加工し、表現することができる能力を身につけさせるために、生徒のレポートをコンピュータ上にデータベース化したものや、VTR・図書館資料・学習用ソフトをもとに、グループでまとめさせる。分かりやすく発表させるために、コンピュータを使った、プレゼンテーションやVTR、オーバーヘッドカメラ等も活用させる。最後に一斉授業に比べ、知識・理解面が低い調べ学習を補うために、解説指導型の市販の教育用ソフトウェアで個別学習を行い、知識・理解を深める。

**キーワード** 市販の教育用ソフトウェア・メディアの活用・CAI・データベース・個別学習・調べ学習  
1年地理東南アジア

### I テーマ設定の理由

これからの学校教育では、21世紀を目指し社会の変化に自ら対応できる能力や創造性の基礎を培うとともに、生涯学習の基礎を培う観点から、自ら学ぶ意欲と主体的な学習の仕方を身に付けることが大切である。

学習指導要領総則第1章第2指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項の2の(2)の中に「生徒の興味や関心を生かし、主体的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」と記されている。また(9)の中に「教育機器などの教材・教具の適切な活用を図るように努めること」と記されている。

新たに示された教育機器について中学校指導書教育課程一般編第3章教育課程の編成及び実施の9の(1)の中で、「コンピュータ・VTR・LL・OHPなど教育活動において用いられる機器を幅広く含むもの」としている。また、これらは、「学習の動機づけや理解の促進、生徒の多様な特質等への対応などにおいて有効であり、適切に活動することによって、教師の指導や生徒の学習活動を一層効果的に進めていくことができる。また、その活用を通じ、これからの社会において必要とされる情報や各種の情報手段を主体的に選択し活用していく能力の育成を図っていくことも期待できる」と示されている。

特にコンピュータは、今日の高度な技術革新のなかで、音・VTR・グラフィック・アニメーション等を取り入れることができる教育機器となった。従来のVTR・LL・

OHPの機能を備えるようになり、情報化時代における教育機器として重要視されている。

しかし、本校の社会科授業では活用されておらず、アンケート調査結果からは、ほとんどの生徒がコンピュータを社会科授業に活用してほしいと願っている。また、社会科授業を楽しいと答えた生徒は10%と少なく、もっと楽しく分かりやすい授業を望んでいる。

そこで現時点で本校に導入されている市販の教育用ソフトウェアを、他のメディアと組み合わせ、有効に活用することで、生徒が授業に興味・関心を持ち、楽しく分かりやすい授業が構築できるものと考え、本テーマを設定した。

### II 研究テーマの仮説

社会科授業において、市販の教育用ソフトウェアを、他のメディアと組み合わせ、有効に活用することによって、生徒が授業に興味・関心を持ち、楽しく分かりやすい授業ができるであろう。

### III 研究内容

#### 1 新しい学力観に立つ社会科の授業

新しい学力観に立った課題解決学習や体験学習では、生徒は伸び伸び学習しているが、そのような学習では「基礎・基本が身に付かない」とか、「多大な時間を要する割には効果がそれほど高くなく、効果の悪

い指導になっている」などの指摘がある。教師主導型の授業は知識を詰め込むには効果的かもしれないが、他の三つの観点に関する能力の育成にとっては効率的ではない。つまり、基礎・基本は「知識・理解」ばかりでなく、四つの観点のそれぞれにあることを認識しなければならない。

学校で身に付けた知識を有効に活用している大人は、学校の先生などでその他の職についた大人は、ほとんど活用されていないのが実態である。覚える学習はどんな時代において有効な学び方なのか、考えてみると、社会の変化の乏しい時代や、情報の乏しい時代の学び方においてである。また、学歴社会において、受験優先で、知識の詰め込みに奔走した社会科授業は、確かに受験に有効であったが、これからの情報化社会では、このように育てられた生徒の能力はいろいろな問題が生じるであろう。

変化の時代は生涯にわたって学び続ける時代で、学校は生涯にわたって学び続ける基礎を培う場といえる。これからの学校教育は、主体的な学習を適切に積み重ね自己教育力、自己評価力の育成を個に応じ、個性を生かす教育を推進して個性の伸長、発揮に努めなければならない。社会科教育においては、座標軸になる知識の徹底（例えば、地理学習で47都道府県名を繰り返し、覚えさせる）や学び方を学ぶ授業を構成、展開し、「3人寄れば文殊の知恵」的な学習が成り立つようにする。また、生徒一人一人のよさに着目し、よさを伸ばす指導に努めなければならない。

## 2 新しい社会科とコンピュータを利用した授業

### (1) 変化の時代の社会科授業とコンピュータ

変化の時代での教材開発は、改訂版でなく増補版でなければならない。学習においても、静止画的な学習から、動画的な学習へと変わりつつある。これからのコンピュータを利用した授業では、整理と検索、資料を加工することが必要不可欠である。また、認識一辺倒の学習から認識と表現を繰り返す学習、

受け身的な学習から主体的な学習へと変化する社会科授業の中では、対話のできる場の設定、確保が大切になる。たとえば、授業における一例を紹介すると、生徒が図書館資料を活用して調べたものを、データベースにして、生徒同志が互いにデータベース上で情報を交換しあい整理と加工を繰り返し、認識・発見し、プレゼンテーションによって、表現をおこない、質疑応答で認識と表現を繰り返す学習などをいう。このことから、これからの、コンピュータを活用した社会科授業では、一斉指導から、個別、グループ学習重視へ移行するであろう。

### (2) コンピュータを利用した授業づくりの配慮事項

コンピュータを生徒に知識を与える道具として利用するのではなく、生徒の思考や表現などの活動を広げ支援する道具として利用する。すなわちコンピュータを教師の活動を代行させる道具、人間に代わる判断させる道具といった概念でとらえるのではなく、「人間が思考し情報を作り出すための道具」・「必要な情報をみつけ出す道具」・「獲得した情報に自分の解釈を加えて加工する道具」・「自分の情報を表現し伝える道具」・「集めた情報を分析・整理して人間の思考・判断を促す道具」としてとらえる。

教育には子供たちに知識を順次計画的に与えて行くという側面もあるが、コンピュータを「情報を与えること」のみに利用するという考え方は要注意である。それよりも、教育のもう一つの側面である「情報を作らせること」が重要であり、受け身ではなく、主体的に考える学習でなければならない。それは生徒に情報を構造的に組織化させ深い有意義な理解をさせることである。つまり、生徒の学習の場面で重要なのは、単に知識を与え覚えさせたり、問題を与え回答を照合するといった利用よりも、コンピュータを図書や新聞、および映像メディアなどいろいろな教育メディアのなかの一つとして利用させ、必要な情報を選択・理解し、自分の解釈を加えて他の人に伝える情報に加工し、表現することができる

能力を身につけるように指導することが大切である。教育とは、生徒が自ら課題や問題に対して解決の道順を見つけて、方法や道具を使って解答を追求していくことができるように育てることである。その過程のなかで、理解する、他の考えを探す、比較する、使ってみる、討論する、などの活動が生徒たちの有意義な思考・理解をもたらすのである。この思考過程を活性化させる新しい社会科学習の道具としてのコンピュータの活用を追求していかなければならない。

コンピュータを利用するうえでの前提条件として教師はコンピュータを利用する以前に、教材分析、教材作成、教材記述法、メディア教材を組み入れた授業内容編成、および学習データ分析・解釈など教育方法・教育情報の生産・分析・活用法に関する基本的な理論・技法の理解と実践力を身につけておかなければならないのである。そして、何をコンピュータで処理すればよいか、という判断力を培うことである。このことは教師が授業のためにコンピュータを利用するうえでの前提条件である。この前

提条件こそが教育用ソフトウェアの真の力となるのである。

ソフト面では、自主製作の時代ではなく、市販の教育用ソフトウェアの利用を前提条件のもと有効活動することである。

### 3 市販の教育用ソフトウェアの有効活用

#### (1) 市販の教育用ソフトウェアを活用する意義

本校でのコンピュータ活用の授業は、ほとんどなされてなく、技術家庭科の情報基礎で活用されているだけである。それは、各教科の授業で効果的に使える教育用ソフトウェアが少ないことが要因である。教師が授業に必要なソフトウェアを自作することは、時間的な制約から非常に難しい。

今回、市販の教育用ソフトウェアが導入されたことで、コンピュータを活用できる環境が整った。しかし、コンピュータを利用した授業が即、個に応じた学習、主体的な学習ではない。よって市販の教育用ソフトウェアを他のメディアと組み合わせることにより有効に活用でき、ねらいが達成できる。

#### (2) 他のメディアと組み合わせて使う場面（東南アジアの稲作を例として）

- ① 調べ学習・・・調べる資料を一つに絞るのではなく、VTR・図書館資料・データベース・学習用ソフトの中から、各自が適切だと思うものから自由に調べさせる。

	メディア	内 容
1	V T R	市販のVTR教材（東南アジア）から米の収穫の様子を調べる。
2	図 書 館 資 料	世界の食生活の本から米の種類を調べる。
3	デ ー タ ベ ー ス	稲作に関連のある友達のデータベースを検索して調べる。
4	学 習 用 ソ フ ト	東南アジアの農業解説編資料からデータを検索し調べる。

- ② グループ発表・・・VTR・OHP・アルプシステム・OHCの中から、最も効果的なメディアを選ばせ発表させる。

	メディア	内 容
1	V T R	発表したいビデオを3分以内に編集し、生徒ディスプレイに流す。
2	O H P	東南アジアの米の輸出額を提示する。
3	アルプシステム	プレゼンテーション用にまとめ、発表時に活用する。
4	O H C	質問やプレゼンテーション用に活用する。

③学習のまとめ・・・二人一組でコンピュータを使用し、学習ソフトとプリントを20分交替で行う。

	メディア	内 容
1	学 習 ソ フ ト	東南アジアの練習問題 A・Bを個別学習する。
2	プ リ ン ト	学習ソフトの東南アジア練習問題 A・Bをプリント学習する。

④一斉授業・・・グループ発表時と学習のまとめで教師が補則説明に使うが、かならずしも数個のメディアを活用することではなく、状況に応じ活用する。

	メディア	内 容
1	O H C	タイでの米の収穫写真を生徒ディスプレイに写し出す。
2	O H P	東南アジアの米の収穫割合をスクリーンに写し出す。
3	V T R	日本と東南アジアの稲作の違いを生徒ディスプレイに写し出す。
4	アルプシステム	本時のねらいにそってプレゼンテーション用に作成し、提示する。

⑤個別学習・・・③の学習のまとめの段階で教師が画像転送装置で、生徒の学習の進み具合を確認し、リモートキーボードで特定の生徒を支援する。

	メディア	内 容
1	画 像 転 送 装 置	生徒画面をスキャンして、学習の進み具合を見る。
2	リモートキーボード	特定の生徒にリモートキーボードを活用して個別支援する。

#### 4 使用ソフトウェアの内容と活用のねらい

##### (1) THINK リード学習システム

###### ① 内 容

- ・本格的な解説指導型ソフトウェアで、解説が充実しているため、授業の復習や予習に活用できる。
- ・使いやすく操作が簡単で、すぐに学習が開始できる。
- ・学習の手引きや画面構成と解答が分かるテキストが完備されている。
- ・イラスト・動画が豊富で楽しみながら理解でき、鮮明な画面が学習効果を高める事ができる。

###### ② 活用のねらい

- ・本格的な解説指導型ソフトウェアで、解説資料編から調べ学習に活用する。
- ・生徒個々の学習ペースで進めながら、個別学習

に活用する。

- ・発散的な調べ学習での知識・理解を集約するために学習のまとめで活用する。

##### (2) アルプシステム

###### ① 内 容

- ・イメージ・スキャナーを用い、コピー感覚で画面が作成できる。
- ・プレゼンテーションツールとして、グループ学習の発表教材の作成・操作が簡単にできる。
- ・教室内 LAN で生徒機から教材データベースの検索ができる。

###### ② 活用のねらい

資料を整理することの目的は、それを活用することにある。また、活用できることに楽しさの価値があり、その資料整理の方法として調べ学習でデータベースでの検索に、発表でプレゼンテーショ

ン用に活用する。

- ・生徒の表現活動を活性化し、発表の意欲を高める。
- ・思考の道具として用いる。
- ・課題に興味を持たせることができる。
- ・調べ学習に際して必要かつ有効な資料を個に応じて用意することができる。

③ 文字は、目立つように、大きく濃く書く。

(蛍光ペンは使わない)

④ グラフ、絵、カラー資料などを入れ、わかりやすい画面にする。

## 5 アルプシステムによるデータベースの作成の 手順

(1) データベース用画面作成手順

- ① B6用紙横置き1枚をひと画面とする。
- ② 画面は2~4枚程度でまとめる。

(生徒例)

6

テーマ・東南アジアの環境問題・氏名 富山 美貴

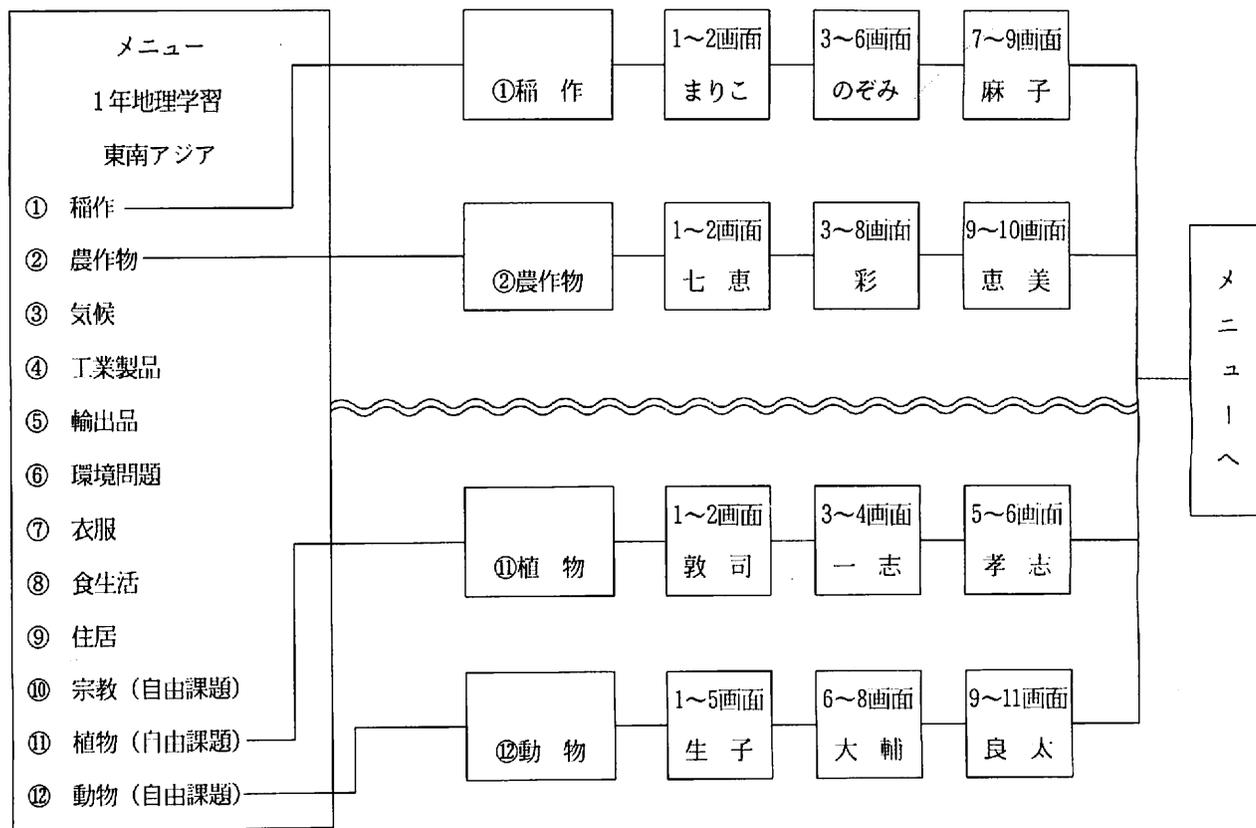
# 東南アジアの川のよごれ



よごれた川で遊ぶ子供たち

東南アジアの川の水は、汚く、衛生的ではありません。なぜなら、川の中で体を洗うのは、あつ前の事で、川の中で用もたしてしまいます。左の写真は、こういった川の中で泳いでいる子供の写真です。

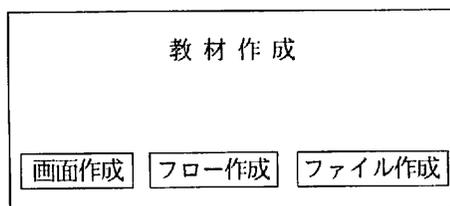
- (2) コースの流れ作成  
画面の流れの構想図を書く。



(3) 画面入力手順

生徒が作成したレポートをイメージスキャナーでコンピュータに画面として入力する。

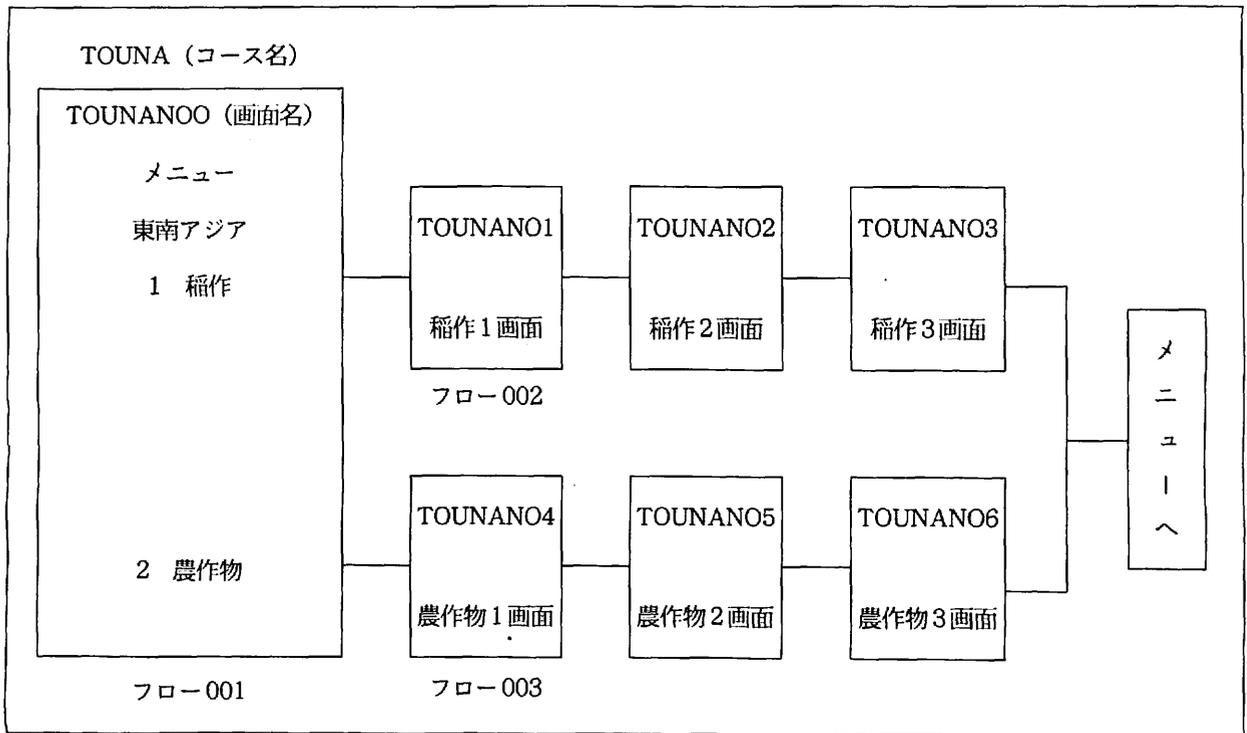
- ① メニューで教材作成を選択すると右の画面がでる。
- ② **画面作成** をクリックする。  
※画面が変わり、次々にメニューが表示されるので次の順に進んでいく。
- ③ **コピー** → **カラー** → **B 6** → **普通** をクリックする。



- ↓ ※イメージスキャナで画面が取り込まれる。
- ④ 編集が完了したら **格納** をクリックする。  
↓ 画面名を入力します (キーボードより) 8文字以内  
最後に格納を **全部** か **部分** を指定してクリックする。
- ⑤ 終了したい時は、**完了** をクリックする。続けたい時は、**画面** をクリックする。

(2) コース作成手順

画面を構想図に従い順序よく張り付け、コースを作成する。



(構想図)

## IV 授業実践

### 1 単元名

世界とそのいろいろな地域

### 2 単元目標

- (1) 我が国の国土を広い視野に立って認識する背景として、多様な地域や国から構成されている現代社会の特質を大観させる。
- (2) 日本や世界の各地域における人々の生活には地方的特殊性と一般共通性のあることを気づかせ、それを成り立たせている地理的諸条件について考えさせるとともに、人々の生活の地域的特色を理解するための基礎を培う。

### 3 小単元目標（東南アジア）

- (1) 東南アジアの国々について、位置や気候、文化などを調べ、東南アジアについて興味・関心を持たせる。
- (2) 東南アジアの稲作はどのように行われているか、また、緑の革命の結果、農村にはどのような変化がみられるのかを調べて考えさせる。
- (3) バナナはどのようにつくられているかを、調べて考えさせる。
- (4) 日本は東南アジアからどのような農産物を輸入しているかを、調べて考えさせる。
- (5) 熱帯林の破壊はどのようにすすんでいるか。また、日本はこの問題とどのようにかかわっているかを、調べて考えさせる。
- (6) 東南アジアの工業化はどのようにすすめられているか。また、それは農村にどのような影響をおよぼしたかを、調べて考えさせる。
- (7) 東南アジアでもっとも近代化が進んでいるシンガポールでは、どのように社会が変化しているかを調べて考えさせる。

## 4 単元について

### (1) 教材観

私たち日本人が現在のような豊かな生活を送ることができるのは東南アジアの国々の人々に負うところが多い。バナナや天然ゴムといった熱帯作物だけでなく、えび・うなぎといった「日本的な」食品にしても東南アジアの人々が生産しているのを口にしていく。石油、衣料品、木材、さらには「労働力」にいたるまで、私たちの生活は東南アジアの人々によって支えられている。また、稲作等においても地理的条件や地方的特殊性によって日本と共通するところや違いがあることが分かる。

しかし、生徒に実施したアンケートで東南アジアに対するイメージや知っていることを書かせて見ても、「貧しい」とか、「遅れている」といった言葉で東南アジアをとらえている。また、東南アジアの多くの人々の貧困の原因の一つが日本などをはじめとする先進国にあるという認識を持っている生徒は当然のことながらほとんどいない。現在、先進国と呼ばれている国々が東南アジアを植民地にした歴史も、地主制によって貧富の差が増大していることもほとんど知らない。たとえば、先進国にバナナを供給するためのプランテーションは大地主が所有しており、そこで働く人々の多くは国際価格が暴落すると解雇され、土地をもたぬ人々は食べるものにも事欠くありさまである。農村で職を失った人々は都市に出て、住む場所の見つからないものはスラムに住みつくことになる。外国に行ける比較的余裕のある者は、同じ労働者でより高い賃金の得られる、日本へ出稼ぎに来るといった実態についても、ほとんどの生徒が正確な知識を持っていない。ましてや、東南アジアがどこにあるのかすらわからない生徒がほとんどである。このことから、この教材は「輸出農産物」・「環境問題」・「稲作」・「工業化」を取り上げの中で、日本との関連や違い、あるいは共通するところを学び、東南アジアの国々を理解するのに適した教材である。

## (2) 生徒観

学級における社会科とコンピュータに関するアンケートの結果を見ると、社会科に対して興味・関心は普通であるが、特に本単元の東南アジアに関しては、他の単元にくらべ関心が薄い。コンピュータはほとんどの教科で活用されてないが、小学校で活用した経験から割りと操作ができる。また、ほとんどの生徒がコンピュータを活用した授業を望み、コンピュータに対する興味・関心度が高い。このことから、コンピュータを活用し、興味・関心の薄い東南アジアに興味を持たせることができると思う。

学級の雰囲気は、男女間の会話が少ないように思われるので、検証授業では、男女ペアでコンピュータを利用することにした。

## (3) 指導観

本単元の指導の方法としては、単元に入る前にあらかじめ冬休みの宿題として東南アジアに関するテーマ10の中から好きなテーマを選択し、データベース用の用紙2~4枚程度にまとめさせておく。本単元の授業では生徒を5班にわけ、各班にテーマを新たに指定する。冬休みの宿題としてまとめた資料をデータベース化し、生徒はそれを中心に資料を集める。集めた資料をもとに発表する場を設けて楽しさと学習意欲を育てたい。

学習指導要領の「第3指導計画の作成と内容の取り扱い」の2には「資料を選択し活用する学習活動を重視する…」と記されている。また、第2指導計画の作成に当たって配慮すべき事項の2の(2)の中に「生徒の興味や関心を生かし、主体的、自発的な学習が促されるよう工夫すること」と記されている。そこで、これを受けて本単元の学習では、資料活用を通し、主体的な学習の仕方を身につけさせ、学ぶことの楽しさを体得させたい。また、東南アジアと日本をめぐる問題を本単元の学習が経たあとも図書館・コンピュータ・テレビ・新聞などのメディアから情報を収集し、自分で思考・判断し、関心を持ち続け

させる。

## 5 利用環境

### (1) 使用ソフトウェア

① THINKリード学習システム

② アルプシステム

### (2) 使用機種

① IBMモデルPS5530-T40

## 6 評価のポイント

- (1) 生徒が自ら課題を設定し、意欲を持って学習に取り組むことができたか。
- (2) 図書館や他のメディアの中から、必要なデータの選択・収集ができたか。
- (3) 収集したデータをグループ内で検討・編集してアルプシステムでまとめることができたか。
- (4) メディアを利用し、まとめた情報をうまく発表することができたか。
- (5) 生徒の目が輝き、楽しく活発な発表及び質疑応答がなされたか。
- (6) 市販の教育用ソフトウェアで楽しく練習問題を解くことができたか。

## 7 学習活動

(1) 冬休みの宿題・・・図書館で調べた生徒のレポートをデータベースにする

- ① 単元に入る前に東南アジアの課題（冬休みの宿題）を与え、データベース用画面2～4画面にまとめさせ、アルプシステムを利用しデータベースにする。

(2) 調べ学習・・・VTR—図書館資料—データベース—学習用ソフト

- ① グループでVTR・図書館資料・データベース・学習用ソフトを活用して調べ学習を行う。
- ② グループでプレゼンテーション用画面にまとめさせる。
- ③ 発表用VTRを編集する。

(3) グループ発表・・・VTR—OHP—アルプシステム—OHC

- ① VTR・OHP・アルプシステム・OHCを取り入れ発表する。

(4) 学習のまとめ・・・学習用ソフト—プリント

- ① 学習用ソフト・プリントを活用して知識・理解を深める。

8 指導計画 (8時間扱い)

小単元	主 題	指 導 内 容	日時	時間	図書館 利 用	コンピュ タ 利 用
東南アジア	①検証授業オリエンテーション	・冬休みの課題提示 (12月28日締め切り) ・アンケート調査	12月15日	◇		
	②プレテスト	・東南アジアの基本問題 (20分) ・東南アジアの発展問題 (20分)	12月16日	◇		
(第1時)	③図書館・コンピュータ活用オリエンテーション	・図書館利用方法・コンピュータ利用方法 ・グループ割り・テーマ提示	1月8日	1		◎
(第2時)	④コンピュータ操作演習	・データベース・市販の教育用ソフトウェアの使用方法	1月10日	◆		◎
	⑤調べ学習	・各グループで調べ学習 (データベース・図書館資料・市販ソフト・VTR)	1月10日	1		◎
(第3時)	⑥調べ学習	・各グループで調べ学習 (データベース・図書館資料・市販ソフト・VTR)	1月11日	1		◎
(第4時)	⑦資料の整理	・各グループで資料を整理しまとめる ・プレゼンテーション画面の作成	1月11日	1	◎	
(第5時)	⑧発表の準備	・プレゼンテーション画面の作成 ・画面構成及びシナリオ作成	1月12日	1	◎	
(第6時)	⑨コンピュータ操作演習	・プレゼンテーション画面完成 ・画面完成の班はコンピュータ操作練習	1月12日	◆		◎
	⑩発表の仕方	・発表時の機器の操作練習 ・発表の仕方練習	1月16日	☆		◎
	⑪発表リハーサル	・1班～5班まで流してみる ・リハーサル反省	1月17日	☆		◎
(第6時)	⑫・東南アジアの環境問題 ・東南アジアの工業製品 ・多民族の国ソマリア	・3グループによるグループ発表	1月18日	1		◎
本時 (第7時)	⑬・東南アジアの稲作 ・東南アジアの輸出農産物	・2グループによるグループ発表	1月19日	1		◎
(第8時)	⑭・東南アジアのまとめ	・市販の教育用ソフトウェア活用によるまとめ	1月22日	1		
	⑮ポストテスト	・東南アジアの基本問題 (20分) ・東南アジアの発展問題 (20分)	1月23日	◇		

◎利用教室 ◇検証用・調査テスト ◆コンピュータ操作 ☆放課後やゆとりの時間活用

## 9 第2時の学習

(1) 主題「東南アジアの調べ学習」

(2) 本時のねらい

- ① 各グループが楽しく、データベース・市販の教育用ソフトウェア・VTR・図書館資料のメディアに分かれ、調べ学習を行うことによって、グループ意識を高める。
- ② 各グループが各テーマごとに調べ学習を行うなかで、東南アジアの国々について興味・関心を深める。

(3) 授業仮説

各グループがデータベース・市販の教育用ソフトウェア・VTR・図書館資料などのメディアを活用して調べ学習を行うことにより、楽しく学習を行うことができ、東南アジアについて興味・関心が深まるであろう。

(4) 指導過程 ◆は教師の活動 ◇は生徒の活動

過程	学習内容	学習活動	メディア	評価	指導上の留意点
導入 (5)	1 ソフトウェアの使用法	◆今回使用するソフトウェアの確認をする。	◎OHP	興 関	◎ソフトウェアの概要を説明する。
展 開 (45)	2 東南アジアについて ①稲作 ②輸出農産物 ③環境問題 ④工業製品 ⑤多民族国家 シンガポール	◇各グループごとに与えられたテーマにもとづいて、データベース・市販のソフトウェア・VTR・図書館資料を参考に調べ学習をする。	◎データベース ◎市販のソフトウェア ◎VTR ◎図書館資料 ◎教科書・副読本	興 関 資 活 思 判 知 理	◎市販のソフトウェア・データベース・VTRの操作について分からないところなどを助言する。 ◎発表に必要な資料のみに絞るよう助言する。 ◎発表の構想がまとめられるよう助言する。
ま と め (5)	3 テーマの確認	◆テーマの内容を確認する。 ◇グループで内容を再度検討する。	◎OHP	資 活 思 判	◎時間が足りないグループには次時までに内容をまとめるよう伝える。

興関は興味関心 思判は思考判断 資活は資料活用 知理は知識理解

## 10 第7時の学習（検証授業）

日時 平成8年1月19日（金）5校時

学級 第1学年1組（男17・女18）35名

指導者 浦西中学校 教諭 上地利造

(1) 主題「東南アジアの稲作と輸出用農産物」

(2) 本時のねらい

- ① 東南アジアと日本の稲作の共通点とちがいを調べ理解し、興味、関心を持たせる。
- ② 日本は東南アジアからどのような農産物を輸入しているか調べ理解し、興味、関心を持たせる。
- ③ メディアを活用し、グループ発表をすることにより、東南アジアの国々に興味、関心を持たせる。

(3) 授業仮説

図書館資料やいろいろなメディアを活用し、グループで調べたことを発表することにより、「日本と東南アジアの稲作の共通点やちがい」・「東南アジアからの主な輸入農産物」が分かり、東南アジアの国々について興味・関心が深まるであろう。

(4) 指導のポイント

① 事前指導・準備

- ・ アルプシステムを利用し、データベース・市販の教育用ソフトウェア・VTR・図書館を利用して収集した資料を整理して、プレゼンテーション

画面を作成しておく。

- ・ 発表用シナリオを作成し、発表がスムーズにいくように、発表時に使う機器の操作練習をしておく。

② 指導者の役割

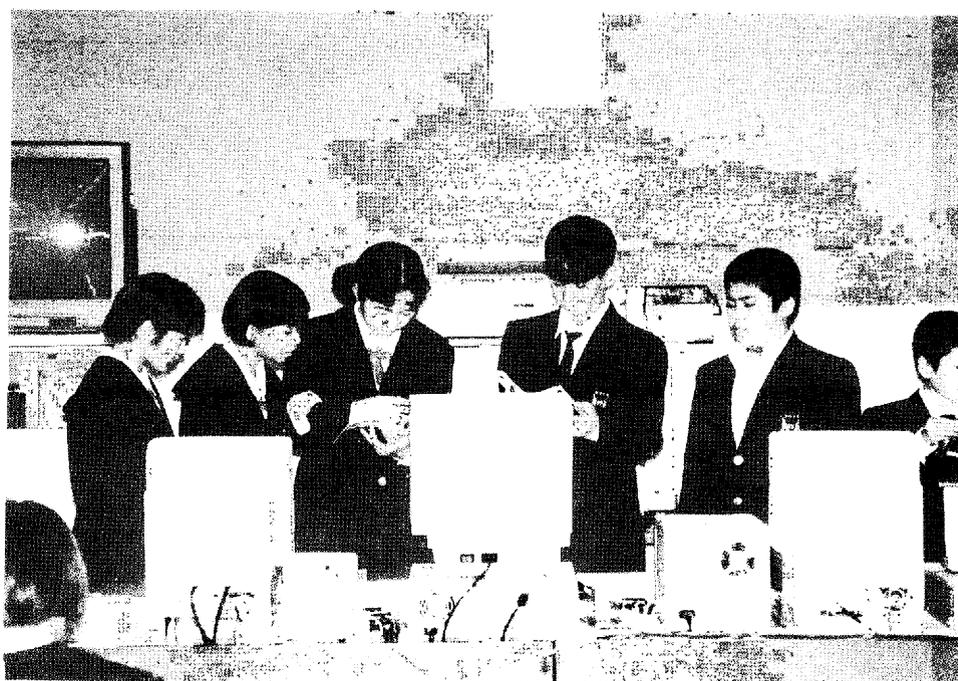
- ・ アルプシステム及びTHINKリード学習システムの機能や扱い方について、できるだけ簡単に操作できるように助言する。
- ・ 本時のねらいにそって、授業を通しアドバイザー的役割に徹する。
- ・ 発表用のプレゼンテーション用画面をアルプシステムで編集する。

③ その他

- ・ 教師はこのソフトウェアの操作について理解しておく。
- ・ 教師はVTRなどの周辺機器の操作についても、理解しておく。

(5) 学習活動

- ① 東南アジアの国々のパズルゲームによる、ゲーム遊び。
- ② アルプシステムと他のメディアを組み合わせたグループ発表。
- ③ グループ発表での重要事項を補足説明。



(6) 指導過程 ◆は教師の活動 ◇は生徒の活動

過程	学習内容	学習活動	メディア	評価	指導上の留意点
導入 (5)	1 東南アジアの国々	◆東南アジアの国々のジグゾーパズルをさせる。	◎東南アジアの国々のジグゾーパズル	興 関	◎あまり時間をかけない ◎東南アジアの国々に興味関心をもたせる
展 開 (45)	2 東南アジアの稲作	◆グループ発表の確認 ◇東南アジアの稲作について調べたことを発表する。 ◇質疑応答	◎コンピュータ (2人1組で使用) ◎自作のプレゼンテーションソフト ◎OHP ◎VTR	資 活 知 理 思 判	◎5グループに分け、1グループに同じ課題を与え、その内の1グループが発表するなかで質疑、意見などが活発に出るようにする。
	3 東南アジアの輸出農産物	◇東南アジアの輸出農産物について調べたことを発表する。 ◇質疑応答	◎図書館資料 ◎コンピュータ (2人1組で使用) ◎自作のプレゼンテーションソフト ◎OHP ◎VTR ◎図書館資料	資 活 知 理 思 判	
まとめ (5)	4 東南アジアのまとめ	◆グループ発表重要事項を補足説明する。	◎OHC ◎白黒板	知 理 思 判	◎教科書の内容にそって補足説明する。

興関は興味関心 思判は思考判断 資活は資料活用 知理は知識理解

## 11 第8時の学習

(1) 主題「東南アジアのまとめ」

(2) 本時のねらい

- ① 市販の教育用ソフトウェアを活用し、知識理解を深める。
- ② 市販の教育用ソフトウェアを活用し、個別学習を行い、個に応じた指導を行う。
- ③ OHCを活用し分かりやすく補足説明し、東南アジアに興味・関心を持たせる。

(3) 授業仮説

発散的な調べ学習での知識理解を集約するために、市販の教育用ソフトウェアを他のメディアと組み合わせ、有効に活用することにより、生徒の知識・理解が深まるであろう。

(4) 指導過程 ◆は教師の活動 ◇は生徒の活動

過程	学習内容	学習活動	メディア	評価	指導上の留意点
導入 (5)	1 ソフトウェアの使用法	◆今回使用するソフトウェアの確認をする。	◎OHP	興 関	◎練習問題の手順を分かりやすくOHPに提示する。
展 開 (40)	2 東南アジアのまとめ ①練習問題A (市販ソフト) ②練習問題B (市販ソフト) ③練習問題A (プリント) ④練習問題B (プリント)	◇2人1組でコンピュータを使用し、問題を解いて行く。	◎コンピュータ (2人1組で使用) ◎リード学習システムソフトウェア ◎プリント練習問題 ◎画像転送装置	知 理	◎教師用モニターを見たり、机間巡視で学習の進み具合に応じ、生徒に支援をあたえる。 ◎2人1組でコンピュータを使用し、市販ソフトとプリントを各20分交替で行う。 ◎プリントの問題は市販ソフトの問題として、繰り返し問題を解く。
ま と め (10)	3 まとめの補足	◆難しい問題を生徒機に一斉提示し、説明する。  ◇質疑応答	◎OHC ◎白黒板 ◎OHP	知 理  思 判	◎教師は事前に、プレゼンテーション画面を作成しておく。

興関は興味関心 思判は思考判断 資活は資料活用 知理は知識理解

## V 研究の成果と課題

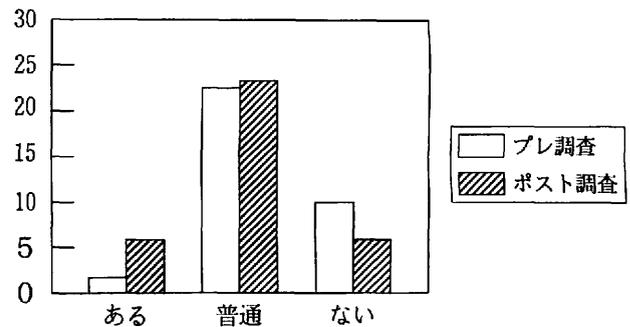
### 1 検証授業アンケート調査からの成果と課題

(1) あなたは、社会科に興味・関心がありますか？

◇は普通 ◆は成果と課題が大きい

	プレ調査	ポスト調査
A ある	2人 (6%)	5人 (14%)
B 普通	23人 (66%)	24人 (68%)
C ない	10人 (29%)	6人 (17%)

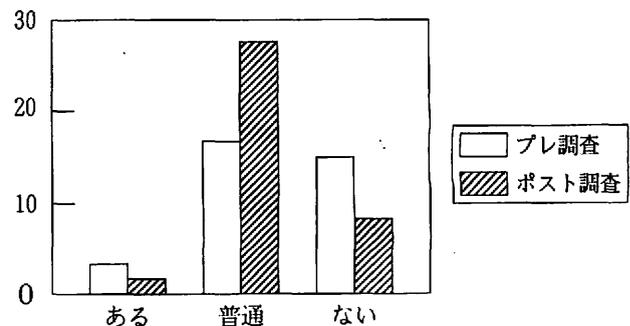
◇成果→社会科に興味・関心がでてきた。



(2) あなたは、東南アジアに興味・関心がありますか？

	プレ調査	ポスト調査
A ある	4人 (11%)	2人 (6%)
B 普通	16人 (46%)	26人 (74%)
C ない	15人 (43%)	7人 (20%)

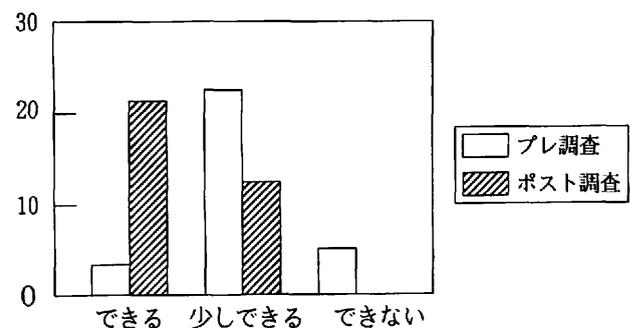
◇成果→東南アジアに興味・関心がなかった生徒が少なくなった。



(3) あなたは、コンピュータを操作することができますか？

	プレ調査	ポスト調査
A できる	4人 (11%)	23人 (65%)
B ちょっとできる	25人 (71%)	12人 (34%)
C できない	6人 (17%)	0人 (0%)

◇成果→コンピュータを操作できるようになった。

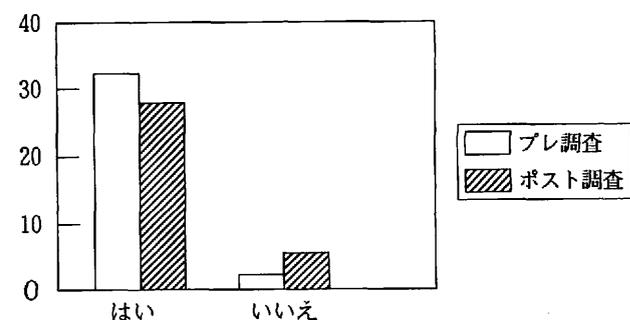


(4) あなたは、社会科授業に、もっとコンピュータを活用してほしいですか？

	プレ調査	ポスト調査
A はい	33人 (94%)	29人 (82%)
B いいえ	2人 (6%)	6人 (17%)

◆成果→コンピュータを活用した授業を望んでいる。

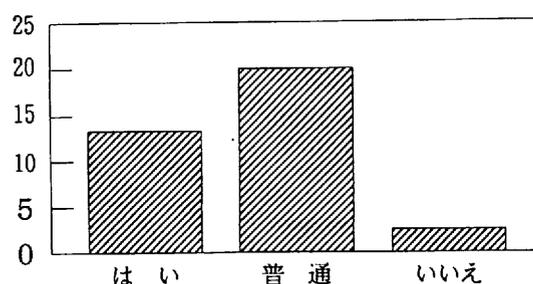
◇課題→まだコンピュータになじまない生徒が数名いる。



(5) 今回のコンピュータを活用した授業は分かりやすい授業でしたか？

A	はい	13人 (37%)
B	普通	20人 (57%)
C	いいえ	2人 (5%)

◇成果→分かりやすくなった。



## 2 成果

### (1) 検証授業から

- ① 生徒が楽しく機器を操作し、発表することが出来た。
- ② グループ発表をするなかで、活発な質疑応答がなされた。
- ③ 生徒作成の画面がディスプレイに写し出され生徒に感動をあたえた。
- ④ VTRを生徒ディスプレイに写し出すことにより、短時間に見やすく、分かりやすく発表することができた。

### (2) 検証授業アンケート調査から

- ⑤ コンピュータを活用した授業は、普通の授業より分かりやすく楽しかった。
- ⑥ 社会科に興味・関心がでてきた。
- ⑦ まったく東南アジアに興味・関心がなかった生徒が多かったが、少なくなった。
- ⑧ ほとんどの生徒が多くのメディア(市販ソフト・データベース・プレゼンテーション用ツール・VTR・OHC・OHP)の操作ができるようになった。
- ⑨ 今後もコンピュータを活用した社会科授業を望むようになった。
- ⑩ 基礎・基本とは、「知識・理解」ばかりでなく、「資料活用」「思考判断」「興味と関心」の四つの観点のそれぞれにあることを認識すれば、基礎・基本をおさえることができた。

## 3 課題

### (1) 検証授業から

- ① 調べ学習では、発散的学習をしたため、教科書にそった内容の授業にならなかった。

これは、コンピュータを活用した社会科授業では、従来、学ぶべき内容と教材と方法を教師が指定し、到達すべき一点に生徒を行きつかせるタイプから、開かれた学習(発散的・拡散的学習)への転換の時期にあるので、あえて、発散的学習にしたためである。

- ② コンピュータの機種が古く、学習効率面で悪い。  
 今後は、マルチメディア的コンピュータ環境の整備導入が要求される。

## 4 終わりに

やっとここまでたどりついたといったところでしょうか。毎日が苦しみの連続で、二度とコンピュータを触るものと悩みつつも、本校校長、真栄田義勝先生はじめ、研究所の皆さんに励まされ、報告書をまとめることが出来た次第です。21世紀に向け、情報教育は、避けて通れない道、だれかが開拓しなければと、つるはしを握った財産は、学校現場に戻り、大きな舗装道路となることを夢見ている現在である。

最後に指導なさった浦添市教育研究所所長山中一郎先生、与那覇武係長、浦添市教育委員会与那覇律子指導主事、コンピュータのスイッチすら入れることのできなかつた私にコンピュータの操作、理論を指導助言下さった當問正和指導主事、及び関係各位に感謝申し

上げます。

《参考文献》

- |                                     |        |
|-------------------------------------|--------|
| 文部省 情報教育に関する手引き                     | ぎょうせい  |
| 文部省 中学校学習指導要領                       | 大蔵省印刷局 |
| 文部省 中学校指導書 社会編                      | 学校図書   |
| 全国教育研究所連盟 だれもが身につけたいコンピュータ<br>の授業活用 | ぎょうせい  |
| 渋澤文隆 情報教育指導養成講座講演                   | 文部省    |
| 渋澤文隆 新学力観に基づく中学校社会科指導細案地理的<br>分野1年  | 明治図書   |
| 佐藤隆博 学校教育におけるコンピュータ活用のあり方           | 実教出版   |